



## 呼吸器付け忘れ書類送検へ 看護師 2 人を容疑で

記事：共同通信社 提供：共同通信社

【2008年6月13日】

大阪府八尾市の八尾徳洲会総合病院で昨年12月、人工呼吸器の付け忘れで寝たきりの患者が死亡した問題で、八尾署は13日までに、業務上過失致死の疑いで20代の女性看護師2人を来週にも書類送検する方針を固めた。

調べでは、2人は昨年12月17日、乳がんで入院していた女性患者＝当時（87）＝のケアをする際、体をふいたりするために呼吸器を外したまま付け直すのを忘れて別の病室に行き、患者を窒息死させた疑い。

呼吸器が外れたことを知らせるアラームが鳴らないよう、「テスト肺」と呼ばれる機器につないでいた。数分おきに鳴る音が周囲に耳障りな上、その度にアラームのスイッチを切るのが面倒だったという。

院内では当時、同様の処置が日常的に行われていた。病院側は再発防止対策をとっている。

当院でも入浴時などにテスト肺を人工呼吸器に装着している状態が見受けられます。しかし本来テスト肺は人工呼吸器の動作確認・呼吸器回路のリーク確認が目的で使用されません。

人工呼吸器には目や患者認識システムの搭載はなく、テスト肺が付いていれば患者さんに装着しているものと認識し呼吸器回路外れアラーム（低圧アラーム・1回換気量下限アラーム等）は鳴りません。

またアラーム機能は「目覚まし時計」と一緒に必要だから鳴る・必要だから鳴る設定をする。アラームがうるさいから鳴らなくしては、意味がありません。

